大正四年六月二十一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

京都帝國大學經濟學會

# 經濟論叢

第二十四卷　第五號

昭和二年五月一日發行

## 論叢

分配論の性質……九州帝國大學教授 文學博士 高田保馬
中世の港……教授 文學博士 三浦周行
勤勉奬勵目的の課稅……教授 法學博士 神戸正雄
純粹國家……助教授 法學士 作田莊一

## 說苑

ロッシャーとヘーゲル哲學……講師 文學博士 米田庄太郎
ブルゲン氏の諸社會主義評論……教授 法學博士 田島錦治
琉球最後の王朝とペルリ提督……教授 法學博士 山木美越乃

## 雜錄

指數の形式と指數の目的……助教授 經濟學士 蜷川虎三
比較性なき統計的計數……經濟學士 菊田太郎

## 法令

銀行法・震災手形損失補償公債法・震災手形善後處理法・兌換銀行券整理法・公益質屋法・海外移住組合法・輸出絹織物取締法

（禁轉載）

# ブルゲン氏の諸社會主義評論（譯四）

田島錦治

## 第四章　經濟上の均衡

若し一の社會が正義の夢想に向て生產の進歩を犧牲に供するを必要なりと判斷せし場合には、嚴密の意味にて其社會は其富を增すこと無く貧しく生活することに同意すと考へらるべし。併し乍ら一の社會が諸經濟關係の下に於ける均衡無くして生存し得とは思はれず。

集產主義は果して能く此均衡を確保し得るか。（1）それは生產を消費の諸欲望に適合せしめ得べきか。（2）諸消費者の諸需要をして現存する諸生產物の量に適合せしめ得るか。（3）勞働の供給を生產の諸欲望に適合せしめ得るか。余輩は均衡の問題を此三點に分ちて考察せざる可からず。

生產上に費されたる平均勞働に從ひて計らるゝ價値は、物の性質又はその稀少性（la rareté）を度外に措く所の計量にして、且社會の欲望及び其變化を考慮に入れずして始め定めたるまゝに止まる所の計量（une mesure）なり。斯の如き硬固なる（彈力性に乏しき）機制（mécanisme）は集產制の社會

に其欲求する所の均衡をそれ自身にて與ふる能はざるは明かなり。然れども若し社會が此均衡を定むべき注意（仕事を指す）を本質上誤り易き意思（volonté）に委任するを要せば、若し此目的の爲に專恣なる諸手段及び强制的の諸方法に依るを要せば、啻に富の進歩のみならず公民の自由及び彼等の衣食住の安固も亦犧牲に供せらるべきなり。故に此問題は非常に重大に又同樣に困難にして、注意深き研究を要するものなり。

## 第一節　生産と消費の諸欲求とに就て

### 一

一の經濟社會は恰も一個人の如く、卽ち限りある收入を有し、彼の見込に由る比較的重要度に應じて各種の欲望に其收入の或る一定額を充つる所の者に髣髴たり。社會も亦有限の生産力を有す。卽ち土地の自然力、人力に由りて作り出されたる生産方便物、勞働の力等是なり。社會は此等有限の生産力を適用し分配するに方りては、消費の諸欲望の强度の順序に從ひそれ等を滿足する樣に爲すなるべし。前に述べたる如き問題の困難が集産制の社會に現出することを明示する爲には、茲に重複を顧みずして如何に其問題が個人主義的社會に於て解決せらるゝかを吟味するは決して無用に非ざるべし。

個人主義的社會に於ては、生産は單一意思（集産制の社會の如く）に由りて支配せられずして、幾千の個人の各自の責任の下に自由に行動する所の事業なり。此公權の指導を受けざる經濟界に於て均衡が得らるゝ所以は他なし、一の自然の力ありて各生産者を、恰も機械的の如き仕方にて個人的利益なる單一の激勵により、而かも彼等全體を包括する智慮（例へば公權の命令の如き）の助け無くして、結局社會の公益に合する樣に指導するに由るは明かなり。

扨斯の如き力は現存す。それは交易に於て對價を出し得る消費者（他の語を用ふれば有效的需要を爲す人）が種々の貨物に賦與する所の效用（l'utilité）の度合に從ひて變動する所の價格の力なり。蓋し生産が充分正確に欲望の强度に比例して割當らるゝ所以は、恰も通底器内の液體の如く價格及び利潤を平準にする所の法則（la loi de nivellement）あるに因る。固より此法則には抵抗するもの無からずと雖も、確實及び餘儀なくする傾向を以て行はれ、特に文化益々進みて競爭愈々自由となる時を然りとす。

人の皆知る如く生産費（其中に企業者の資本の利子及び彼の勞働の報酬を含む）は價格の重力中心を成す。此均衡點に接近する價格の動搖は、與へられたる或る一貨物が他の貨物に比して過多か又は過少かを示し、同時に諸企業者をして今後彼等の生産を縮少し又は之を擴張して以て損失を避け又は利潤を獲んと決意せしむ。若し當該貨物の價格が生産費に一致せば、それは其物に對

する欲望の滿足が過大に非ざるを示し、且それより緊急の欲望は固より總て滿足せられ居ることを示す。何となれば若し然らざれば諸消費者は彼等の富を他方面の購買に向くる故に茲に問題となせる貨物の價格をして必ず生産費以下に低落せしむべければなり。

上述の事實は、生産が如何に擴張せらるゝとも同種類の商品の各標本を殆んど同一の生産費を以て作り得る如き生産の場合に就て見れば明白なり。是れ卽ち工業生産、それ自身に就て考へらるゝ場合にして（蓋し工業に於ても其所在地及び其使用する原料に關し農業鑛山等に於ける如き自然條件の影響を受くべしと雖も其等を除外して考へることを工業生産それ自身に就て考へらるゝと云ふなり）、製造は運轉資本、機械及び勞働力の增加に因り製品一箇當りの生産費を增加することなく、否寧ろ之を減少して、擴張せらるゝを得べし。蓋し其製造に向て其原料を供給する所の農業鑛山業よりは遙かに多大の資本及び勞力を要する所の工業生産物は、實際上、同一の生産費を以て益々多く復生産し得べくして、恰かも此價格（卽ち生産費に相當する）を支拂ふ準備ある消費者の需要の增加に適應し得べしと思考せらる。

然れども農業及び鑛山業に於ては生産費は斯の如き均齊を保つを得ず。

夫れ人は自然に求むる所ろ愈々多ければ自然の與ふ所は愈々少く、人が自然力を制馭すべき新方法を發見するに非ざれば、生産費は益々割高となり（une resistance élastique）、遂にも得る所ろ失ふ所を償はざるに至る（un refus absolu）。これ土地收穫漸減法則として人口に脅威する所な

り。蓋し科學の進歩は其行はるべき限界を後退せしむるを得べしと雖もそれを完全に避くる樣にする能はず。此法則に反する場合として擧ぐべきは、疎放的耕作を集約的に改めたる時に投じたる最初の資本は往々比例的より大なる收穫を得ること是なり。然れども生産を增加する爲に費用を多くする各農業に於ては一の最高點ありてそれを過ぐれば新らしき投資は常に減少する比例に於て生産を增加するものなるは毫も疑を容れず。此頂點より收穫漸減の或は緩或は急なる傾斜は始まり、遂に生産の增加が絶對に不可能となる點に迄下るなり。

此自然法則卽ち同時に物理的にして且經濟的なるものより次の結果を生ず。社會に於て欲望が增進するときは從來耕さるゝ土地に一層集約的なる及び比較的費用多き耕作を施こすか然らざれば稍劣れるか又は一層遠隔の土地に耕作を擴ぐるを要すべし。此すべての場合に於て追加せらるる分量の生産又は運搬に投ぜらるゝ費用は殆んど同等なり。實に前述の一層集約的耕作の爲さるる土地に於ては其生産物の單位の平均生産費は輕微に昇騰すれども、若し收穫の全體の中に就て追加生産物「卽ちそれを得る爲に要したる費用の增加に由りて收穫せしめ得たる部分」の生産費を別に計算するときは、吾人はそれが前述の一層劣等の土地又は一層遠隔の土地より來る所の生産物と目立ちて等しき高騰率のものなるを發見すべきなり。

耕作又は運搬の費用を低くすべき技術的進歩なき場合に於ては、此の一層多くの費用を要する

追加的生産を爲し得る爲に、價格の高騰は當然必要なり。此高騰が長延くときは獨占的利益若くは優良地の耕作に向ての地代(レント)が現在の地主の利潤となり、而して此利潤は其土地を他人に貸すときは賃借料に變し、之を賣りたるときは其價格の利子に變じて共に耕作人の負擔となる。斯くして生産の諸費用は異なれる諸耕作に於て殆んど同等となる。然れども若し吾人が單に生産的資本及び勞働の使用に要する費用、卽ち地代としての費用に非ず、又は地代の存在に隨伴する費用(前記買ひたる土地の價格の利子を指す)に非ざる費用のみに就て考察するときは、農業的生産費は其異なれる諸經營に由りて同等ならず(土地の生産力に差等あり及び遠近の差ある故に)、而して一經營に就て見れば(收穫漸減法則行はるゝ故に)生産せらるゝ量に由りて同等ならずと謂ふを得べきなり。

夫れ斯の如く農業的生産費は工業的生産費の如き均齊なる基本を示さゞれども尙ほ同樣に生産者に向て確實なる指針(響導)たるものなり。諸生産者は大小諸種の生産費の段階に就て超ゆること無くして達せねばならぬ段位をよく知る(卽ち價格に一致する生産費にして之を超ゆれば損失を免がれず)。蓋し彼等の固有の利己心は社會の欲望に對し其關係的强度にて計らるゝ部分的滿足(他の欲望に比して關係的强度の滿足を與ふるものを社會は選擇する故にかくいふ)を與ふる爲に彼等が生産すべき分量を完全に彼等に明示するなり(卽ち社會が支拂はんと欲する價格に該當する生産費の段位までは生産を擴ぐるをいふ)。

農業家及び鑛業家は生産物の價格に由りて啻に新經營に投じ得る費用の限度を知るのみならず、又從來經營しつゝある土地及び鑛山を一層集約的に經營せんとして彼等の投じ得べき費用の

限度をも知る。實に彼等は追加生産物に對する增加せる生産費が猶は實際の價格に比して有利なる限りは、生産物の一單位に要する費用の增加する點を超えて生産を擴張すべきを知る。故に若し此費用の增加あるにも拘はらず利潤の總額は年々增加する場合には、他の事情がすべて同じければ、それは（1）追加生産物は他の物と同一の利潤を彼等に與へざれども尙ほ幾らかの餘剩を與ふること、（2）此追加生産物の原價卽ち「それを生産する爲に投ぜる追加的費用より生ずるもの」は尙ほ販賣價格以下に在ること、（3）故に此追加生産物はすべての他の物（他種類の物を指す）に優りて消費者に欲求せらるゝことを示すなり。然れども生産者は費用の增加が彼等の耕作の利潤の減少を來すを知るや否や費用を節減すべき要あるを感ずべし。その時追加分量の費用が販賣價格より大なることが分る。此等の分量に就ての損失は全體上の計算內に陰蔽さるゝも其經營の利潤總額の減少に由りて現はされて、耕作者が社會の欲望の均衡を注意せざりしことを示すものなり。斯の如く若し社會が此追加分量の生産費に相當する價格を支拂ふことを欲せざる場合あらば、是れ此拙なる企業者が其生産を增加する爲め投じたる費用の額を社會は寧ろ他の使用に投ぜんことを可とせざるを示すなり。

以上述べたる所を要約すれば、價格及び利潤との作用は消費者が他の支類の生産のすべての增加に先だちて得んと欲する「最大費用を要する分量」の限度まで擴張することに因りて生産を消費

に適合せしむ。生産が「社會の需要」即ち「支拂はんと欲する人々の需要」に對し常に調和を保ち得る如く整頓せらるべきに於ては、絶對的獨占の場合を除き、少くとも前述の「價格及び利潤が生産を消費に適合せしむ」といふ點に資本の個人的收益力(la rentabilité individuelle du capital)と自然的生産力(la productivité naturelle)との間の調和あるなり。蓋し此現時の社會組織は富の分配の觀點より批評を受くべしと雖も、生産をして「交易上對價を出すを得る消費者」の欲望に適合せしむるに足らずの非難を蒙るべきものに非ず。此適合は自然に知らず識らず行はる、即ち資本の最も有利にして最も欲求せらるゝ生産の方に就きて他を去る所の傾向に由りて行はる。實に此個人的社會は生産に施こされたる誤れる管理、生産過剰又は不足より生ずる恐慌に由り屢々苦められたれども、猶ほ且生産者は少くとも一の嚮導を有し、之に依りたとひ彼等が偶ま均衡の點を離るゝことあるも直ちにそれに復歸すると得るなり。

## 二

集産制に於ては生産は全然別の方法を以て整頓せらる。即ち此制度に於ては價値は衆人の慾望に從ひて變動せずして平均勞働の時數に由りて量定せらるゝと共に生産は最早個人又は自治的組合に由りて自由に施行せらるゝを得ず。個人的生産者又は職業的集群はたとひ平均度に優る勉强及び熟練の勞働に由る生産の發展に奬勵せらるゝこと有るも、新種類の良品を生産するに就ては

何等の利害關係を有せず、生產物が公衆の欲求する所なるや否、其等が速かに賣捌かるゝや又は倉庫に殘留するやは彼等には無關係なり、彼等の報酬は此等の事情に由りて定まらず。又たとひ彼等が消費者の嗜好に投合せんとする意思を有することありとも彼等はこれに就て何等の報告も又何等の指導をも有せず（現制に於ける如き價格と利潤との報告指導なし）唯彼等の感想に由るの外なきが故に其成功は得て期す可からず。さればとて勞働單位を以てする價値の量定と個人又は產業組合の自由生產とを結び付けんと欲する各制度は到底亂調及び不統一となるを免がれざるべし。

之に反して集產制の社會は生產及び分配の整頓機關を有するが故に決して不統一に非ず。指導を與ふるは中央の公權にして叡智全能全權を有し全體を照臨する爲に充分に高き位に在りて國民經濟を統轄す。此最上の公權は領土のあらゆる部分に亘り消費の微細なる欲望に至る迄熟通し、種々の職業集群に其提供すべき生產物の種類及性質、實行すべき運輸、各地方倉庫內に聚積すべき備品を命令す。

大なる輪廓に就て見れば此集產制の設計は容易に實行し得べく思はるれども精細に視察するときは均衡が果して理論上に於てさへ可能なりやの疑あり。而して若し推理の助に依り此疑を解き得るときは、更に彼の指導的智能（前記中央公權を指す）は果して其任を全ふするに堪ふるやの質問は出づべし。

余思ふに此第一の疑問に就ては、唯中央公權がそれ自身絶對無謬の資格あり、且完全無缺の調査報告の局課の補助ある場合に於てのみ均衡は得らるべし。

假定に依れば、集産制の政府は過去の消費、現存する物資、需要の消長に就て正確なる調査報告を有し、今直ちに滿足せられ得ざる需要を帳簿に記入し、不足せる又は過剩なる品物の量を明知す。斯くして政府は其蒐集する所の直接なる報告に由り諸欲望の實況を其全般に就て知るが故に、夫の全般の事情に通ぜずして唯價格なる間接なる反射鏡に由りて使用價値の變動を判斷するに過ぎざる多數の自由生産者に比すれば、遙かに勝りて生産を適合するを能くすべし。未來の諸欲望に關しては此經濟的行政府は需要の傾向及び諸收穫物の貯藏の狀況に照して此等を豫見すべし。實に政府は此等を知ることは最も機敏なる投機業者に讓らざるべく、而して其豫見は無智拙劣なる多數賭遊者の影響に由る虛僞の相場に誤らるゝことなし。

集産制の國家に於ては國民經濟はロビンソン又は族長制の家族の家政の如き實物經濟（l'economie en nature）の型の而かも其擴大せられたる段級を呈す。其經濟單位の內部に於ては生産は單一の意思にて處置せられ、且全く特種なる分配の手段に由りて生産者の欲望に直接に充當せらる。商業上の取引は唯外國に對して物々交換又は金屬貨幣の使用に由る賣買あるに過ぎず（即ち國內の人民間には商取引なし）。

中央指揮者（中央公權を指す）は先づ物品の過不足を精査し之に依りて正確に其等の中の增加すべきものと制限すべきものとを知り、斯くして生產をして生產費に當る價格を提供する人々の需要に適合せしむ。此事を理解するに最も簡單なるは、例へば麻布の如き生產の費用が國のすべての生產所に於て殆んど同一なる工產物の場合なりとす。麻布が生產費の價格にて賣却せらるゝ間は政府は消費者の欲望を誤解すとの心配なしに其生產を擴張し得べく又せざるべからず。彼は其製品の何れの部分にも損失を負はぬを見れば、他の品物が此既に作られたる麻布の何れかの一メートルより多く欲求せられ居らざることを確認し得るなり。

農鑛の生產に於ては同種類の國營の全體の上にて補償せしむるの外なき其生產費の不同に因り適合（即ち生產を消費へ）は甚だ困難と思はる。若し政府が前と同じ主義を執るとせば生產物に過剩を生ぜしむることなく原價を以て總ての需要を滿たし得る樣に生產を行ふべし。然るに茲にては原價とは生產の一部分に於ける損失を陰蔽せる平均價格なり。故に斯の如き割安の價格に對して頻出すべき總ての需要額を滿たす爲には國の生產力は果して充分なるを得るかの疑問は生ずべし。

若し食物及び其他自然的生產物の價格が國の生產の全體を以て通算せる平均費用の水平まで下るときは其消費の需要額が非常に增加すべしと實に思考せらる。現下の經濟界に於て小麥葡萄酒又は石炭の價格は稀少性の成分を含む。即ち此價格は決して平均生產費に由りて定まらずして、

消費者が他の總ての貨物に先んじて欲する最高價の分量の生産に向て投ぜらるゝ費用の水平まで昇るものなり（謂ゆる最大生産費が價格を決定すとの法則に從ふを指す）。此高率に依り現今生産と需要との間の均衡は保たる。然るに價格が平均生産費までに下る日には此平均は需要の夥しき增加に由りて破るゝことなきか。行政廳は其準備する有限の生産方便を以て生産の總ての種類に就て完全なる消費の滿足を與ふることは固より不可能なるべし。故に若し政府が平均生産費に由る「需要と生産物との間の均衡」の點まで或種類の生産を擴張するときは、更に一層重要なる諸欲望を等閑に附することとなるべしと思はる。

前述困難の事情を一層明白ならしむる爲にシャムパン酒の生産の如き著るしく有限なる生産の例を取るべし。今其收穫が二百萬ヘクトリットルにして（一ヘクトリットルは百リットルに當る）二億枚の勞働切符を値ひし、卽ち平均一リットルに付一枚に當ると假定す。此適度の價格にては需要は供給せられし分量を遙かに超えて恐らくは四百萬ヘクトリットルに達すべしと想像せらる。行政府は消費者に逼られ、且酒倉には貯へ拂底となるを以て、次年度には費用を二倍にして生産を擴張し及び集約的にすることを決意す。然れども（收穫漸減法則行はるゝ故に）たとひ氣候は前年の如く良好なるも政府は唯五十萬ヘクトリットルの增量を收穫し得るに過ぎず。此增量に對して更に二億枚の切符を與ふるが故に此增量の部分の原價は一リットル四枚に相當す（五十萬ヘクトリットル卽ち五千萬リットルに對し二億枚を與ふる故に）。然れども總收

穫高二百五十萬ヘクトリットルに對して原價の總額四億枚を要したれば全體の平均原價は一リットルに付一枚六分に過ぎず（二百五十萬ヘクトリットルは二億五千萬リットルなれば此數にて四億を除すれば一・六となる）。斯の如き平均計算に由りて弱めらるゝ價格の騰貴（即ち一リットルに付四枚の代りに一枚六分）は蓋し四枚の騰貴の場合の如くに過度なる需要を抑止するに足らざるべし。而して政府は尙ほ生產を次年に擴張して、彼が消費者の充分多數を抑止するに足る丈の高率の平均價格を定むる程度に追加的生產の費用が高くなる時に迄及ぶべき乎。實に其時は始めてシャンパン酒の需要と生產との均衡に達し得と謂ふべし。然れども此時迄には政府は葡萄畑に過大の費用を投じ、生產方便物及び勞働者の著るしき數量を他の生產的利用より轉ずるに至るべし。斯くして彼は他所に缺陷を穿つべく、詳言すれば農業又は工業の他の生產支類に於ける需要の滿足を阻害すべし。故にシャンパン酒釀造用の葡萄の耕作には其均衡點に達する餘程前に生產の擴張を中止するを要す。然れば中止すべき點は何れか、到底之を確定するを得ざるべし。

他の總ての自然的生產例へば小麥又は石炭の如き最も普通なる生產に於ても同上の困難は幾分か輕度なれども尙ほ存す。行政府は需要の緊張に由り採掘費百キロに付二枚の切符を要する炭坑を採掘する時、而かも賣價の基本たる平均生產費は國の炭坑の全體に就ては一枚なるときは、如何にして政府は此追加生產の費やせる生產方便物及び勞働が寧ろ他の方面へ一層便宜に適用せら

るべきかを自から確めるを得べきや。今若し登簿せられたる追加の需要が一百萬噸の石炭、一千萬ヘクトリットルの小麥、五十萬ヘクトリットルのシャムパン酒にして、其れに要する總ての生産方便を悉く適用するを得ざる時は（勿論生産方便には限りあれば）政府は此三種の欲望の比較的强度の計量を視て、少くとも部分的に需要を滿たさんと試むべし。然れども政府はそれ等を比較すべき共通計量（la mesure Commune）を有せず、何となれば異なる種類の物品に對する欲求は、若しそれが間接に分量的計量（la mesure quantitative）を示す所の價格（即ち現今の經濟界の）に由りて表はされざる場合に、欲求それ自身にて又は直接に之を計算すること能はざればなり。故に石炭の欲望が他の物より全體に又は部分的に（前記一百萬噸の全部が又は一部かをいふ）緊急なるか、諸消費者は石炭の追加十萬噸を得るより後は寧ろ小麥又はシャムパンの追加を欲せざるか、而して其割合は何程なるかを知ることは不可能なり。

困難は斯の如く大なり。公權は此制度の假定の下に於ては種々の欲望の絶對的の大きさを正確に知る（完全なる統計調査にて）。然れども其等の比較的要度を識る能はず、而して自然的產業（農業鑛山業等を指す）に於ては平均費用の價格を提供する消費者の總てを悉く滿足せしむること能はざるを以て、政府は加重する費用に由る生產を中止するを便宜とする點、即ち各種の消費が部分的滿足を得べき計量を知るの要あれども、彼は此計量を定むべき何等の手段をも有せず。現制に於ける如き需要及び供給に由りて圓滑自由に變動する價値（une valeur）を缺き、社會一般の種々の欲求に對して比較し

得べき分量的表示を與ふる所の價格（prix）を缺くに於ては、此集產制に於ける行政的生產はたとひ最良の統計を以て隈なく照明せらるゝとも遂に盲目となるを免がれざるべし。

然りと雖も上述の疑問は唯に外形に過ぎず。吾人は農業及び鑛山の生產の非常なる擴張と云ふ單純なる確認に由りて此問題を解決する能はず。若し需要が平均生產費の水平を以て定めらるゝ自然的生產物の價格の下落に由りて過度に刺激せらるゝといふ事實に困難が存在すとせば、之を解決するものは生產物の增加に非ず。之に由り諸生產者は當然絕對的多量の財貨を得べしと雖も、土地の產物が空氣又は水の如く澤山となり得る如き進步を想像するに非ざれば、國家は平均價格に於ける諸需要を滿足するに至るべからず、何となれば人の諸欲望は無限に擴大し、而して生產原價の低下は需要に新なる刺激を與ふればなり。是故に均衡は人が達せんと期待する進步の前に絕えず後退して到底之を得ること能はざるべし。

然らば問題の解決は他の方法に由らざるべからず。前段に述べたる如き「集產制の社會に於ける均衡の缺陷及び土地（la nature）に投ずる諸生產力（生產方便物及び勞働）の盲目的支配を證明するに歸着する總ての議論」は「現今最大生產費に於ける需要と共に均衡を保つ所の生產は平均生產費に於ける需要に對しては不充分となるべしとの考」より來るものなり。尙ほ精密に考究すれば吾人は此考の誤れるを知るべし。集產制の下に於て平均生產費に於ける諸需要はそれ自身に、各種のも

のに於て、「最も費用多き諸生産物量が他の諸生産物より多く欲求せらるゝ所の點」に制限せらるゝといふことは理論上可能なり。若し此考が理論上正確ならば均衡は得らるべく、生産は必然的に需要に及ばずといふことなく、政府は最早未だ滿足されざる諸欲求の相對的强度を計るの要なく、農業の各支類に就て其生産を止むるを適宜とする點を求むる爲めに暗中摸索するの要なし。實に諸欲望は無限に擴大せらるべきものなれども、反對に諸消費者の購買方便は甚だ明白に有限なることを忘るべからず。彼等の購買力は生産に用ひられたる勞働に比例して、國の交附せる切符の上に出づることなし。此制限の下に需要は他方に於て減少することなしに一方に於て增加するを得ず、而して總括して言へば各種類の諸生産物の全體の上に於て需要は決して供給に超えざるは確實なり。蓋し諸消費者は最初の定價の安きに勵まされて一層多くシャムパンを需要すべしと雖も、彼等はその時他の物品の消費を制限せざるべからず、卽ち彼等がシャムパンの需要を增加したる程度だけ小麥や麻布や又は石炭の需要を減少せざるべからず。故にシャムパンの平均原價の小騰貴はその需要の增加を止むるに足るは亦疑を容れずして、行政廳は生産を其均衡點まで進捗せしむるを得、而かも之が爲に他の諸需要を阻害するの恐れなきを得べきなり。此事たるや諸欲求（les desirs）が需要せらるゝ諸物量（les quantités demandées）を超えずとの理由によるに非ずして（欲求は只其物を得んとする願望なれども需要は或一定の對價を以て得んとする物の量なれば通常欲求は需要せらるゝ諸物量を超ゆるなり）、諸消費者の購買方便（卽ち

其所有する勞働切符）が恰も公權に由りて評價せられたる諸生産物の全體の價値に限定せられ、而して彼等の需要が既に生産せられたる總量を超ゆることなく、彼等をして此等購買方便の全額を彼等の欲求に比例して種々の異なる物品に配當せしむるに由るなり。

是に由て之を觀れば勞働單位に由りて同樣に評價せらるゝ諸勞働と諸生産物とが兩者間に均一なる價値の二つの量を成す所の一制度（集産制を指す）の下に於ては生活必需品の生産額は必然的に平均生産費に於ける需要額に劣るものに非ず。諸需要の總額は生産せられたる諸價値の總額を超ゆるを得ざるが故に、生産と需要に由りて示さるゝ欲望との均衡は不可能に非ず、均衡を得る爲には平均價格（即ち平均生産費）に於ける種々の異なる生産物の需要額を知れば足る。若し未來の諸欲望の誤れる豫算に由り偶ま均衡が失はるゝことあらば、例へば石炭又はシャムパンたると麻布たるとを問はず缺乏せる及び過剩なる諸物品に就ての直接なる調査報告に由りて直ちに均衡は恢復せらるべし。此關係に於て誤謬は個人主義の制度の下に於けると同樣に生じ得べし。然れども此等誤謬は理論上集産制の構成に當然含まるゝものには非ず。

上述せる長き且抽象的の解說は此機制（メカニズム）の作用を其重要なる諸部分に就て理解するに必要なりしなり。余輩は集産主義に對し誤れる批評を爲すべからず、又其固有の短所（les vices constitutionnelles）として實は其有せざるものを非難すべからず。實に理論上より見れば生産と諸欲望との關

係に於て均衡は成就すべし。

然れども實際上に於て、此均衡は可能なりや。是亦解答を要する別問題なり。而して集產主義は從來抽象的解剖の論證を固執したれども、彼を移して實地應用の域に立たしむる時は甚大なる弱點を曝露す。

此方式(システム)は全く統計、生產、分配、簿記の任務を下僚に分命して之を指導し又は管理する所の官僚の上に成立す。斯の如く集中せらるゝ經濟組織の下に在りては重要なる欲望に關する行政の過失は啻に人民の幸福を害するのみならず、社會の存在をも危うすべし。又吾人は若し前提として被選行政官の弱點を考の中に入れるに於ては決して此方式の實地の任務を認知するを得ざるべし(即ち被選行政官に完全の人を得るとして此方式を考察すべしとの意)。故に選擧は、知識及び幸福の普及に由りて道德的に變化せる一民主制(une démocratie)の下に於て、最高の智慮、最熟の堪能あり、偏頗及び收賄に傾くこと最も少なき人の選擇を意味すべしと考へらる。又個人主義的生產は普通常人の仕事たるを得れども、集產主義の經濟組織に於ては其行政官の任務は現今社會の生產者の任務と異なりて困難に且强大なるものなるが故に決して不完全の人の履行し得べきものに非ずと考へらる。

統計及び報告の事務は申分なきものなるを要す。倉庫に在る生產物の財產目錄(l'inventaire)及び消費の需要の狀況書は或は充分正確に調製せらるべし。然れども直接に知るを得べからざる欲

望に就ては其計算は非常に困難なるべし。それは生産方便物卽ち綿花、機械、工業用の石炭、運搬用の車船等に就ての場合なり。此種類の欲望は往々種々の隔てる階段に於て（例へば綿花は絲となり布となり衣となる迄に三階段を隔つ）消費者の欲望より導びかるゝものなり。故に行政府は此等を、消費又は享用の物品に就て取れる統計に據りて自から判斷せざるべからず。

輸出すべき諸種の貨物の計算は尙ほ一層紛糾す。例へば佛國に於ける葡萄酒が啻に內國の消費に充つるのみならず外國へ輸出せらるべき場合に於て如何にして葡萄の生産に向ての適當の面積を判斷すべきか。行政府は米國より買ふを要する綿花の量を知るも、米國又は米國の債權の振替を受くる他の總ての國（卽ち米國に對して債權ある國）が果して引換として葡萄酒を欲するか及び其幾何の量を欲するかに就ては唯其大略を知るを得るに過ぎざるべし。ことによれば我に輸入品（例へば綿花を）を供給する國が亦集産主義を實行し、自然的獨占を惡用して輸入國より過大の高價を搾取することあらむ。此場合に如何なる相場に於て豫め彼の要求する所のものを計算すべきや。此等の困難は今日も尙有り、國際交易の任務は價値の變動に直ちに服從する所の多數の商人投機業者及び銀行家に由りて施行せらる。今日國際貿易の管理及び其貸借の決濟を主宰する所の總ての複雜なる方式卽ち爲替、アービトラーヂ（arbitrage）、割引步合の決定、金庫現在金の移動等が政府の自覺ある管理に移さるゝときは大に簡單となるべきは明白なり。然れども此事業は一人又は責任を負ふ一會

議（un conseil responsable）に向ては餘りに巨大なるべし。

外國貿易上に於ける計算の困難は更に他の方法に於て增大すべし。內國の生產例へば小麥の生產は需要と均衡を得る爲に平均費用の或る一定の水平まで擴張すべきは既に述べたり。若し國が其消費に必要なる小麥の總量を生產するを得ざるときは、政府は不足分を外國に求め其對價として葡萄酒織物美術品其他の物品を與へざるべからず。而して此等の物品の生產に就ては政府は外國の需要を豫見して之を整理せざるべからず。然るに政府は同時に需要と均衡の保たるべき平均費用の水平に內國の小麥の生產を制限せざるべからず、故に政府は此平均費用を計算するを要し、それには外國に仰ぐ小麥の代償として輸出する葡萄酒織物美術品等の價格を斟酌するを要すべし。斯くの如く紛糾は愈々解くべからざるものとなる。

中央公權は現今獨立する生產者又は商人等より一層完全且確實なる調查報告を內地消費の直接欲望の全體に就て得べしと考へらるれども、其代りに官吏に非ざる自由生產者及び商人は價格の指針に注視し、正確に且迅速に需要の變動に適應することに絕にず注意す、是れ他なし彼等の成功又は失敗の繫る所なればなり。吾人は集產主義經濟の被選管理者に對して同一の戒心細慮を期待し得べきや。個人主義經濟の下に於ても固より障害あり、過失あり、又私人的失敗あるは論を待たずと雖も、此等の過失は其甚しき場合と雖も全部に亘るものに非ずして、一方に於ける拙劣

は他方に於ける賢明に由りて輕減せられ又は修補せらるべし。然れども集產制の社會に於ては之と異なるべし。經濟を管理する公權の過失は集中されたる任務の上に落つるが故に任務の總てを壞亂すべく、而して若し生活必需品の生產又は分配に關して過失が犯されたるときは甚だ不幸なる結果を生ずべく、卽ち食物缺乏、又は未開國に見る如き饑饉の慘害を呈すべし。而して吾人現時の財貨循環の方式は、たとひ其弱點あるにも拘はらず、此種の慘害を文明諸國より決定的に逐放し得たりしなり。

集產主義者は個人主義の生產が到る處に生產過剩を惹起するを見て、之れを目して不統一的(anarchique)と爲し頗る得意の色ありと雖も、實は然らず。たとひ此生產には往々危機及び不整齊あれども而かも全體に就て見ればそれ等は甚だ微弱にして、集產主義の言に反して著るしく調和的(harmonieuse)なり。實に此生產の制度は中央意思の干涉なく、又强制力に依ることなく、集合し(例へば都會の如く)又は散在(例へば田野の如く)する數千百萬の人に日々の必需品を供給し及び最も多種多樣なる彼等の欲望の滿足を與ふる所のものにして、茲に善き且大なる調和ありと謂ふべきなり。

社會主義者は叡智なる意思(中央公權を指す)に由りて支配せらるゝ社會的勞働の合理的組織が自由競爭の不統一なる制度に優ることを絕叫ず謳歌す。例へばベラミー氏(Bellamy)は此二つの生產方式を取りて、後者を多數の小會長に由りて指揮せらるゝ野蠻人の一群に比し、前者を一元帥の命

令の下に調練せらるゝ一軍に喩ふ。彼は又人の反社會的主義卽ち利己主義（l'égoïsme）が却て社會の凝聚力を成すと世人が考へ得ることを驚怪す。

實際に於ては集產主義の弱點は現社會の經濟上の諸作用を支配する自動（l'automate）に代ふるに智慮ある意思を以てせんとする所に潛在す。ポール・ルロワボーリュー氏が其著「集產主義」に說ける社會組織と人體組織との比較は最も當を得たるものなり。人體の最も重要なる作用、卽ち呼吸消化血液の循行等は本能的に且無意識に行はる。若し此等の事にして其必要とする總ての諸運動が反射せらるゝ代りに意思に由りて其度每に熟考され及び命令さるゝを要するならば果して一層宜しきを得べきや。[1]

集產制の官僚に課せらるべき仕事は明かに人の能力の範圍を超ゆ。本來の性質上管理の過失と兩立せざる一方式が却て必然的に誤り易き人々の上に置かると云ふ恐るべき矛盾は之を力說せざるべからず。食物缺乏又は停滯は統計の不良、簿記の誤謬に由り、及び或は各種生產所に向ての勞働の分命に就き、或は各地方倉庫に向ての生產物の分配に就きての命令の等閑又は過誤に由りて必至的に來るべき結果なり。若し管掌せらるべき非常に複雜なる任務と同時に世事の處理に免かれ難き諸人の弱點とを考慮せば、吾人は夫の謂ゆる改造の社會（la société "régénérée"）は現時の社會に吾人が其片影をだも見るを得ざる一般虛脫の慘狀を呈すべきを豫想するなり。

1) Paul Leroy-Beaulieu, *le collectivisme*, 4e éd. p. 328, Guillaumin, 1903, in-8°.

## 第二節　需要と貯藏生產物とに就て

本節に於ては供給と需要との均衡を前節に述べたる所と方向を代へて說明せんと欲す（卽ち前には生產が如何にして消費の欲望と均衡を得べきかを說き茲には既に生產せられたる在庫品が如何にして需要に應じ得るかを論ず）。何となれば供給卽ち倉庫に存在する諸物品に對する需要の適合は或る特別の困難を伴ふが故に茲に新なる說明を爲すの要あればなり。

理論上、行政廳は場合に由る單一（工產物の場合）又は平均（農產物鑛產物の場合）の生產原價の基本に於て恰も需要と適合する迄生產を行ふに由りて常に均衡を得べしと考へらる。然れども事實上慥かに彼は只盲搜に由りて事を行ふの外なく、從て大多數の場合各種の生產物の供給は需要に超ゆるか又は之に反すべし。

第一に行政廳が生產を充分に擴張するを欲せざる場合有り得べし。卽ち彼は珍奇又は流行の嗜好に滿足を與ふることを差控へ、又は例へばシャムパンの生產を抑へて牛乳又は麥酒の生產を奬むる如き方法を以て癸衆の嗜好を矯めんと企つることあるべし。

尙ほ一層頻繁に供給又は需要の超過か、或は地方倉庫に、或は國の全體に、先見の誤謬より來るべし。此誤謬は常に之を行政廳の過失と看做すを得ず、此は多くの場合に避く可からず、何となれば彼は流行の變遷及び其他種々の事情にして需要の方向を改むる結果を生ずべきものを豫見

するを得さればなり。次に注意すべきは勞働切符の個人的貯蓄が絶えず妨害の役を演ずべきこと是なり。貯蓄されたる各切符は過剰なる卽ち直ちに賣り捌かれざる生產物を表現すべし。又之に反して他の時に於ては貯蓄された諸切符が不意に諸物品中の或る一種の購求に向て持參せらるゝことあるべし。而して此等諸物品の生產は有り得べき諸需要（des demandes provables）の先見を以て其年に交附されたる諸切符に從ひて確定せられたるものなれば、前述の如き場合には或る一種の物品は拂底となり、他種の物品は過剰となることあるを免かれず、土地生產物に就て之を見るに、其供給は決して先見されたる分量に均しきを得ざるべし。農產物は其豐凶が大氣及び氣候の變動に從屬するを以て工產物の如く自制するを得ず。夫れ斯の如く一地方に於て及び全國に於て物品の供給が其需要を超ゆるか又は之に反する場合は無數に起り得べきなり。吾人は生產が將來新なる需要の表示に適合するや否や未だ明ならざる時に如何にして吾人は既に存在する諸物品を賣り捌くべきや。

若し供給が需要に超ゆるときは倉庫に在る生產物は生產原價にて總て引取られ得ざるが故に、是非なく現品の賣捌に就て或方法を講ぜざるを得ず、特に毀損し易き物を然りとす。然れどもそれ等殘品卽ち多分流行後れか又は既に毀損せる物と雖も價格は入庫の時より其物に合體せる社會勞働の量に由る不變の額にて定められたる以上は如何なる方法を以てそれ等の賣捌を促進し得べ

きや。故に止むを得ず其れ等の値下を發表して少くとも其等に對して「需要及び供給の制度」(即ち現今の價格決定の方式)に復歸するを要すべし。然れども斯くすれば集產制度の價値の主義は其制度本來の均衡を棄て、重大な變革を爲せるなり。發行切符の一部分は其對價を成すべき筈の生產物の價値に比して過剩となり、從て缺損の脅威の下に切符の全體は下落し、此方式は全く亂調となるべし。故に若し勞働單位を以てする定價の方式を全然廢棄して需要及び供給の適用を普及するに非ざれば困難は解決し得べくも思はれず。

今更に逆の假定、即ち需要が供給に超ゆる場合に就て見るに、此は複生產し能はざる珍重物件、例へば美術品、寶石、年を經たる葡萄酒、又は葡萄畑か收穫の最盛期に達したる時に取り入れたる葡萄より釀造したるもの、大都會の中央又は好風景の地に良位置を占むる住宅の如きものに何時も必ず起るべし。又同上の場合(即ち需要が供給に超ゆる)は複生產し得べきものにも其生產が一時不充分なりし時には起る。斯かる事情の下に生產原價の定價は問題を解決するには尙ほ餘りに硬固なり(彈力性なきをいふ)。勞働原價の通常率を以て珍稀の物品を供給することは啻に其稀少性の利益を禁ずるのみならず、是れ亦すべて定價を提供し且同一の權利を以て出で來る所の過分に多數の購買志願者(供給量に對して需要多きを以て過分に多數といふ)間に衡平なる選擇を爲すべき總ての方法を自から斷念すと謂ふ可し。(需要及び供給に由る價格の方式に從へば珍稀物品は此需要供給の關係にて生產費以上に著るしく騰貴するが故に需要者をして衡平なる選擇を爲すを得せしむべきなり)。例へば若しシャムベルテン酒

(chambertin 産の同名の赤酒にして古來良品の名あるもの)が勞働原價同一の理由によりアルジャンチュイル(Argenteuil)の産品と同一の定價が附せらるゝならば、何人が之を購ひ得べき乎。若し都會の中央に在る居室の賃借料が建築費に由りて定めらるゝ爲に郊外の住居の賃借料と同一ならば何人が之に住ひ得る乎。多數の申出でありたる時は何人が其選に當るべき乎。

若し吾人が需要及び供給を顧みずして純集産主義の條項を墨守すれば吾人は眞に五里霧中に彷徨することゝなるべし。如何なる割當方法も缺陷あり。眷顧乎。受附の順乎。抽籤乎。將た比例的分賦乎。何れの方法も當面の問題を解決するに足らずして、何れも全然專斷の非難を免かるゝを得ず、何となれば珍稀の物品を買得する勞働切符は其所持者に對し、消費者間競爭なき生産物を買得する切符よりは常に一層大なる便益、卽ち一層高き使用價値を得せしむればなり。故に財貨取得の方便たる物は唯價格が需要及び供給に從ひて變動する場合に於てのみ其購買力の均等を保ち得べきなり。

是に由て之を觀れば集産主義は其價値評定の方法に束縛せられて需要をして實際供給せらるゝ物品の分量に適合せしむる能はず。此主義は過剩生産物の蓄捌に具ふべき何等の手段をも供せず、又不足する物品の割當に就て專斷を避くるを得ざるものなり。

## 第三節　勞働者と生産の欲望とに就て

純生産主義に依れば各勞働時は互に相等し。勞働の種類、難易、其要する注意、或職業に當然必要とする熟練等は其間ふ所に非ず。異なれる種々の勞働には各々それぞれの平均勉强度及び平均熟練度ありと想像せらるゝが故に、石切り職工の一勞働時は銅版彫刻師又は珠玉を琢磨する工人の一勞働とは共に同一の價値を生産物に賦與す。要するに一勞働は總てに向て同一の報酬を生す。

從來此事項に就て屢々反覆せられたる質問あり。曰く何人か賤しき仕事を爲すを欲すべき乎。何人か自から進んで困難なる職業に修業に服すべき乎。何人か生活が無味單調なる僻地に働くを欲すべき乎。若し總ての勞働が其苦樂難易を問はず、唯其時間に由りて酬はるゝときは、勞働者は擧つて最も心目を惹く都會に於ける最も愉快にして最も平易なる職業に就くべくして、其他の位置を去るべし。然らば彼等をして生産の諸欲望に應ずる諸種の仕事を分擔せしむべき方法は如何ん。

最後の手段としては强制即ち徵集の外なかるべし。余は徵集が確定せる規則に由りて行はれんことを信せんと欲すれども、此點に關して集産主義者は細說せざるが故に、余輩は唯次の如く推

測する所あるのみ。蓋し諸職業集群は缺員ある仕事の表を發行すべく、勞働者は彼等の堪能及び嗜好に應ずるものを選むなるべし。然れども就業せんとする者一方に過剩にして他方に不足なる總ての場合に於ては、中央公權は事務の分配を爲すために干渉せざるべからずして、各人に成る可く其技能と力量とに適する職を與へんと勉むべし。失業者に對し既に滿員となれる職業に就くを拒むのみにては、未だ以て彼等をして其苦痛とする職業に就くを餘儀なくせしむるに足らず。意外に多くの人は彼等の貯へたる切符に依り當分生活して此間接强制を避くるを得べし。又空きたる職業へ勞働者を引き寄せる爲に彼等に長く働けばそれ丈多くを利得すべしと示すのみにては亦不充分なり。故に最も苦痛多き職業を充員する爲め、財產を失ひたる（集產制に於ては土地及び資本は社會の公有となる故に）農民をして田野に止まらしむる爲め、財產を沒收せられたる商人及び工匠を小邑に定住せしむる爲めには常に强制に依るを要すべきなり。

思ふに强制せらるゝ勞働及び其結果たる住所の自由選擇權の剝奪程堪え難きものはあらず。社會主義者も蓋し亦之を知る、故に集產主義が最も失望すべき狀況を示す處に於て其主義の嚴刻を改修せんと努む。卽ち個人を徵集（强制勞働）より解放するために、彼等（社會主義者）は志望者最少の職業に於ける報酬を增加し、又は勞働時間を短縮（增率せる時間給を以てす）することを許し、以て勞働者を自由にそれに引き寄せんと欲す。而して唯此方法が不充分なるべき場合に限りて强制を

用ひんとするなり。[1]

然れども社會主義は概して此短き說明を爲すに止まり、異なれる勞働に適用すべき賃率の決定上に於ける專斷を避くべき方法に就て何等吾人に報告する所なし。何れにしても諸係數（coefficients）の計算に向ての法則は之を缺くを得ざるべし。若し此等の係數が公權を握る所の官吏又は會議の思ふ儘に委せられたらむには、到底不公正の弊を避くること能はざるべし。罷業及び暴動は公權に反抗して紛起し、社會の秩序は絕えず擾亂せられるべく、而して職業的諸團體は總て互に他に對する鬪爭的階級を形成し、其反對せる利害關係は如何なる合理的仲裁の主義も之を和解する能はざるに至るべきなり。

余輩の既に知る如く、同種類の勞働に向ては勞働の質に由りて報酬に等級を設くるを得べし。實に吾人は一の生產物標本（un produit-type）を以て一社會勞働時、卽ち生產の或る一種類に於ける勞働の熟練度及び勉强度の一平均單位を示すを得べく、及び此單位を以て各人の勞働の生產物を比較して彼に與ふべき報酬を計算するを得べし。然れども異なる種類の諸勞働例へば漆喰塗りの職工及び家屋裝飾の畫家の如き勞働に就ては、此等異なる勞働に共通し得べき熟練度又は困難度（pénibilité）の平均單位を定め、斯くして他のものより多くの努力、多くの職業上の學識熟練を要する勞働に對し、及び困難多く又は危險多き勞働に對して一層高き報酬を與ふる樣にする事は不可能なり。

1) 特に Jules Guesde, discours du 25 juin 1896, Journ. Off., Déb. parl. Ch. des dép., p. 1073, col. 2 et s. を見よ。

カール・マルクスは特別の熟練を要する職業に就て述べて曰く、生産物に一層高き價値を賦與する所の複雜勞働（die Kompliziertere Arbeit）は恰も簡單勞働（einfache Arbeit）の倍數に當るべし。[1] 然れども彼の觀察は現在の社會に向て爲されたるものなり（未來の集産制の國に就て何等細說する所なきをいふ）。實に現今に於ては異なる種類の勞働の價値は、總ての財貨の價値の如く、金屬貨幣を以てする價格の下に共通計量を有し、之に由りて分量的に比較され得るなり（例へば土工の日給は貳圓にして大工の日給は參圓といふが如し）。然れども若し貨幣を以てする價格が廢止せらるゝならば、簡單勞働の單位の幾許が彫刻師下肥汲取人又はイスランドの漁夫の複雜勞働の一單位に含まれ居るかを直接に（貨幣を以て間接に計らるゝ代りに）判斷するを要すべし。然れども此計算は不可能なり、何となれば此等異なれる勞働は相互に比較計量し得べからざるものなればなり（共通計量を有せず）。ロードベルツス氏も亦集産制の社會に於ける差等率の主義を述べたるのみにて簡單勞働の單位を定むるを得せしめ、又は複雜勞働に向ての諸係數の表を作るを得せしむべき何等の法則を示すことなし。[2]

是に由て之を觀れば異なれる職業及び異なれる地方に於ける勞働の一時間に適用すべき係數は專斷に依らずして定めらるゝを得ざるべし。然るにそれを避くる爲にジョールヂ・ルナール氏（M. Georges Renard）は怜悧なる計算法則を考案したるが、これは後に再述することゝなすべし（これは第二卷第七章第一節に在り）。

1) Karl Marx. *Das Kapital*. Band I. S. 11. vierte Auflage, Hamburg. Otto Meissner 1890.
同上佛譯 *Le capital*. liv. I. p. 17 (trad. Roy.)
2) Rodbertus, *Das Kapital*. S. 135
同上佛譯 *Le capital*, trad. Chatelain. p. 112, 119. et. s.